

令和4年度 学校評価表

(中間(最終))

学校名 三原市立宮浦中学校

校番(27)

| | |
|---|---|
| <p>a 学校教育目標</p> <p>郷土を愛し 確かな学力と豊かな心を 持ち たくましく生きる生徒の育成 ～学び合い、高め合う宮中生～</p> | <p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p> <p>【ミッション】(自校の使命) ◎社会のために役立つと志を抱く生徒の育成</p> <p>【ビジョン】(自校の将来像) ○ 社会に貢献できる自立した人間を育成する学校 ○ 生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校 ○ 確かな学力と人を思いやる心、その基礎となる体力を身につけた生徒を育成する学校</p> |
|---|---|

| 評価計画 | | | 自己評価 | | | | | 改善方策 | | 学校関係者評価 | | | | | |
|----------|------------------------------|---|---|--|--------------|-------|-------|------|--|--|---|---|---|--|--|
| c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策 | f 評価項目・指標 (目標のめやす) | g 目標値 | 10月 | 2月 | i 達成度 | j 評価 | k 結果と課題の分析 | n 改善方策 | l 評価 | | | m コメント | |
| | | | | | h 達成値 | h 達成値 | | | | | イ | ロ | ハ | | |
| 確かな学力の育成 | 基礎・基本を身につけ、積極的に学び合い高め合う生徒の育成 | ○学習規律を大切に日々の自主学習ができる生徒 ○ねらいや目標を具体的に示し、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる教育実践 | ・各種学力調査結果の分析に基づく学力向上に取り組む。 ・総合的な学習の時間や道徳を中心として汎用的な資質、能力(表現力・コミュニケーション能力・公共心が重点)の育成を目指し各教科等とのカリキュラムマネジメントに取り組む。 | ・学力調査等の全国平均との比較 | 全国平均+3ポイント以上 | 30% | — | 30% | D | ・全国学力・学習状況調査の結果は、教科平均で全国比+1.1ポイント、NRT検査の結果は、全教科・全学年を平均すると全国比-0.2ポイントという結果であった。国語では「謙譲語」、数学では「データの活用」、英語では「話す・聞く領域」など、各学年・各教科ごとに課題があった。 | ・校内授業研を通して、個別に市教委の指導や他の職員からの助言を受け、授業改善を進める。 ・年間3回の全体校内研修を通して、授業づくりについて研修する。 ・各教科で各種学力調査や定期試験、小テスト等の結果分析を行い、授業改善に生かしていく。 | 6 | | | ・理論に基づいた授業研究が生徒の学力向上につながると思います。そのための校内授業研究による検証が必要です。 ・課題を把握され、改善策も考えられていると思います。すぐに結果が出るものではないので、徐々に改善されることを願います。 ・適切に対応されていると思います。 |
| | | | ・授業で自分の考えと理由を明らかにし、わかりやすく表現しようとしている生徒の割合(生徒アンケート) | 80% | 81% | 84% | 105% | A | ・「授業の中で自分の考えを表現しようとしている」生徒の割合84.1%。問いの工夫と、多様な意見を交流させるグループワークを授業に取り入れることを継続したことで、相手意識をもってわかりやすく表現しようという意識が高まってきていると考える。 | ・問いの工夫として、発問をシンプルにすることや、生徒が経験をもとに発言しやすいものにするなど、考えの交流を活性化させる。 ・クロムブックを効果的に使い、コミュニケーションの幅を広げる。 | 6 | | | ・市教委からの思考力育成に向けた「問い」の工夫とICTを活用した交流の場の工夫が大切だと考えます。 ・授業を参観させていただき、生徒さんが積極的に発言されていました。このまま継続されることを願います。 ・適切に対応されていると思います。 | |
| 豊かな心の育成 | 夢や希望を抱き、社会に貢献する気概を持った生徒の育成 | ○不登校の未然防止 ○気持ちのいいあいさつ・そうじができ、時間が守れる生徒 ○自己有用感の育成 | ・不登校等生徒への支援に向けた組織体制を確立し、取組を充実させる。 ・ヘル着、あいさつ、掃除の徹底に取り組む。 ・生徒の自己有用感の育成を目指し、各種学校行事や生徒会活動等への主体的・積極的な参加を促す。 | ・学校に行くのを楽しんでいる生徒の割合(生徒アンケート) | 90% | 89% | 93% | 104% | A | ・生徒アンケート「学校に行くのを楽しんでいる生活している」の肯定的回答は、93.4%であった。日々の授業や各学級生活の中で、担任や学年教職員を中心とした指導により、生徒が安心して過ごすことができている成果であると考え。 | ・学年や学校全体の教職員で生徒一人一人をしっかりと見ていき、連絡、報告、相談を密に行う。生徒の日常の姿やささいな変化等について常に情報共有し、生徒が安心して生活できる学校づくりを進める。 | 6 | | | ・安心・安全な学校環境が生徒の満足度に現れていると思います。 ・先生方・生徒さんが一緒に取り組まれている様子が見られます。感謝しています。 ・評価項目・指標に、不登校生徒への支援・取組に関する項目を入れるとよいのではないかと感じます。 ・適切に対応されていると思います。 |
| | | | ・あいさつ、時間、掃除について肯定的に自己評価する生徒の割合(生徒アンケート) | 90% | 96% | 97% | 107% | A | ・生徒アンケート結果、肯定的回答は、あいさつ93.0%、時間98.5%、掃除98.1%であった。(平均96.5%) ・生徒会執行部を中心に月間目標の掲示や呼びかけを行ったことで、生徒の意識が高まった成果であると考え。 ・生徒の自己評価は高いが、自主的に取り組むことには課題がある。 | ・引き続き生徒会執行部が中心となって意識の高揚と行動化に取り組んでいく。 ・3つの習慣に関して生徒一人一人が自主的に取り組めるように、呼びかけに加え、様々な場面で評価して意欲を高める。特に、全校朝会や学年集会での全体指導の場を活用する。 | 6 | | | ・挨拶は小学校でも課題となっています。9年間を通して育成していきたいと強く感じました。 ・生徒さんの自主性を尊重されており、保護者としてはありがたいです。 ・適切に対応されていると思います。 | |
| 信頼される学校 | 生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校 | ○学校満足度の向上 ○郷土愛の育成 ○働き方改革の推進 | ・「学びの変革」の実現に向けた授業力向上に組織的に取り組む。 ・定期的、計画的な学校情報の発信に努める。 ・生徒に対してより効果的な教育活動を行うことを目的として働き方改革を推進する。 | ・授業のわかりやすさについて肯定的に評価する保護者の割合 ・教育活動に満足している保護者の割合(保護者アンケート) | 85% | 83% | 80% | 94% | B | ・保護者アンケート「授業は分かりやすい」68.1%、本校教育活動満足度90.9%(平均80%) ・アンケート「授業は分かりやすい」生徒89.5%に対して保護者68.1%で、授業で思考を深める指導とそのことについての保護者への説明が不十分。 | ・コミュニケーションの活用と問いの工夫、ICT機器の活用に関する校内研修や日常的な授業改善で分かりやすい授業を実現する。 ・授業参観で保護者に授業を公開し、授業の工夫等について理解を促す。 | 6 | | | ・保護者のアンケートの分析が必要だと思えます。その分析からの方策が効果的になると考えます。 ・コロナ禍で保護者が出席できる行事が少なく、先生方とお話する機会も限られているので、アンケート結果に保護者の不安も加味されているのではないかと感じます。 ・適切に対応されていると思います。 |
| | | | ・今年度HPを見たことがある保護者の割合 ・情報発信について肯定的に回答する保護者の割合(保護者アンケート) | 80% | 71% | 71% | 88% | B | ・保護者アンケートのHP閲覧率43.9%。「HPや各種タより、メールの内容は分かりやすい」97.3%(平均71%)学年通信等の各種タよりは情報発信ツールとして分かりやすく伝えられている。理解にHP・学校だよりによる情報発信に課題がある。 | ・HP更新、学校だより発行、月行事予定表配付を定例化し、年間予定に位置付ける。また、HP更新内容を年度当初にリストアップしておく。 ・その時期の重要度に応じた情報発信を行うため、HP掲載レイアウト等に軽重をつける。 | 6 | | | ・HPの閲覧から日頃の情報発信に方策を変える時期なのかもしれません。HPの閲覧は、必要性がないと効果がないように感じます。 ・HP閲覧に関しては、PTAとしても協力するのを感じています。 ・適切に対応されていると思います。 | |
| | | | ・時間外勤務が月45時間以内の職員の割合 | 80% | 46% | 47% | 59% | D | ・勤務時間外労働月45時間以内の教職員47% ・大会引率を出張とし、振替の休みを確保したことで連続勤務の状況が少し改善された。しかし、授業準備、採点・成績業務、校務分掌等の日常的な業務の効率化が課題。 | ・一斉定時退校日を行事予定に位置づけ、月1回完全実施を推進する。 ・部活動休養日の計画的設定、日課の見直し、行事の精選を推進する。 | 5 | 1 | | ・教育現場の特殊性や部活時間制限という困難の中、適切に対応していると思えます。歩みを止めず、保護者も巻き込んだ改革が必要と感じます。 ・部活動の形態を大きく変えないと、達成は困難ではないでしょうか。 ・小学校でも課題として捉えています。業務内容を精選しなくては、時間数の縮小は厳しいと感じます。 ・先生が人数不足。数字に囚われることで生徒のためにすることができなくなるのは主目的から外れてしまう。地域も協力できればと思います。 | |

[j: 自己評価 評価]

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

[l: 学校関係者評価 評価]

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正ではない。
ハ: 分からない。